

# 3回戦

13年春季リーグ  
第4週・5月3日  
6勝1敗

## 1点差守る!

勝ち点3で後半戦へ

# ☆ 駒大 2-1 青学大

駒大	000	110	000	2
青学大	000	100	000	1

(4)砂川	301
(7)齋藤	400
(6)下川	410
(8)江越	310
(5)福山亮	310
(2)木下	411
DH柳原	300
(3)西村凌	310
(9)伊藤	310
計	3062

	回	打安責
○今永	9	3351



【左】試合終了と同時にガッツポーズをする今永  
【右】リード面だけでなく打席でも今永を守り立てた木下



前日の打撃戦とはうってかわって投手戦となった今季初の3戦目。打線は6安打で2点をもぎ取り、先発・今永昇太(経2)は9回1失点完投でリーグトップの4勝目。チームはこれで勝ち点を3とし亜大と勝率を並べた。

た砂川哲平(法3)の打球が相手の野手選択を誘いすぎた。しに成功する。

両者18安打ずつ放った前日の試合とは一変し、息をのむ投手戦となった。中1日での登板をリーグ戦で初めて経験する今永は好調な立ち上がり。試合が動いたのは4回、2死一、二塁の局面で「どうしても今永に先制してやりたかった」と話す木下祐志(市3)が中前に打球を運び1点を先制。その裏、すぐさま2安打で同点とされるが、5回、1死一、三塁の好機で放つ

1点差で迎えた8回、今永は安打で走者を許すと自らの失策で1死二、三塁と一打逆転の危機を招き、青学大の1番・佐野(4年)と大阪桐蔭を迎えたところでタイムをとった。気を取り直し試合を再開すると、打者を連続で中飛に打ち取り、ガッツポーズを見せ、見事1点を守り切った。

「完封するつもりはなかったのですが、思い切った。自分の結果がチームの結果につながる」。試合後、そう話す今永からはチームを背負う責任感、自覚が見えた。これには指揮官も「今日は今永につきると思います」と、エースの活躍をねぎらう。

次戦は6勝1敗、勝ち点3と、勝率の並ぶ王者・亜大。4番を務める江越大賀(法3)は「4連覇を止めるのは僕たちしかないと思ってる」と頼もしいコメント。好投手率いる亜大にどこまで駒大打線が食らいつけるか。一戦必勝の「首位決戦」が始まる。

文、写真

|| 松井智子

松本主将

が選ぶ!



今日のベストプレイヤー!

「今永」

ベストプレー!

「8回のピンチを0で抑えたところ」

## ROOKIES・箱島章矢(38)

「緊張した」一。そんな言葉に驚かされるほど緊張の色を見せず、1年生投手として先陣、好スタートを切ったのは箱島章矢(文1)。青学大2回戦、5回のクリーンアップから登板すると、先頭打者に左前安打を放たれ早々と神宮の洗礼を浴びるがこの回無失点。次の回も2死の場面から2連打も、被安打3、無失点で神宮デビューを果たした。

「打たれても粘り強く、という自分らしさを出せた投球ができた」としっかりと話す目には、投球時からも表情を変えないその中にも興奮の色が見えた。「尊敬する投手は今永さんです」。初登板、少し力が入りながらも、のびのびと26球を力投。憧れの存在に一步近づけた箱島に、今後も期待したい。(五十嵐秋音)

